

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970101960		
法人名	鹿野建設(株)		
事業所名	グループホームうつのみやファミリー		
所在地	栃木県 宇都宮市岩曾町 441-2 電話:028-689-3021		
自己評価作成日	平成23年 11 月 30 日	評価結果市町村受理日	平成24年 2月24日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、のどかな田園風景の中にあり、四季折々の景観を楽しむことができます。家庭的な温かさのあるホームで、家事仕事の好きな方々と台所に立ち、調理ををしたり、買い物に出かけたり、ホーム内では歌を唄ったり、おはじきをしたり、お一人お一人に合わせた生活を送っていただいております。

#### ※事業所の基本情報は

基本情報	
------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成 24年 1 月 30 日	評価確定(合意)日	平成24年 2 月 13 日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10年目を迎えた2階建て2ユニットの事業所です。理念に沿った支援として特に重視している入居者の役割作りは、食事作りなど得意分野を分担し、全員が自信を持って生き生きと参加している。地域の一員として、地域の行事、近隣の小・中・高の運動会、文化祭に参加するなど幅広い交流を持っているとともに、蕎麦打ちなど多くの地元ボランティアを受け入れており入居者の楽しみになっている。管理者は近隣の家庭を足繁く訪問し、活動状況を報告するなど接する機会を増やす取り組みが理解され、事業所を訪れる方も多くなり交流も一段と深まっている。念願だった駐車場の一部をネットフェンスで囲み門扉も整備され敷地内で楽しめる安全なスペースが確保できた。医療面でも協力医(内科、歯科)による定期往診や治療が可能で、本人・家族の安心に繋がっている。理念の着実な実践を通し、地域密着に努めている事業所です。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(すみれ・なでしこ)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入所者の方々が、地域の中で個性豊かに暮らして頂けるよう把握し、サービス提供できるよう独自の理念として作って実践している。	入居者が自分の出来る役割を持ち、自信のある生活が送れることを重視し、理念を「安心のある暮らしを支える」と見直した。職員は新たな理念の入居者の役割作りなどについてミーティングで話し合ったり、行動の中でお互いに確認し合って実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、地域の中の暮らしを大切に、地域交流や近隣の方々とも日々の暮らしを通して伝えている。	地域の行事には積極的に参加している。自治会長や近隣の家庭を頻りに訪問し、事業所の活動状況を小さな事でも伝えるなどコミュニケーションを大切にしている。大量の郷土料理「しもつかれ」や野菜の差し入れなどで事業所を訪れてくれる方も多くなっており、近隣の方々との交流が深まってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターを通して認知症の方の御家族の相談を受けたり、認知症の方の対応をアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、介護サービスについての取り組みや情報報告を行い、話しあった内容を職員に会議等で伝え、活かしている。	家族代表、民生委員、包括支援センターが委員で6回/年開催している。委員のアドバイスにより年間の開催予定日を決め事前に議題を提示している。事業所の概況報告、委員からの情報提供(緑のカーテン)やアドバイスを得るなど双方向の会議となっている。家族にはダイジェストを広報紙で知らせている。	地域の理解と更なる協力を得るためにも自治会長の参加、また、議題に応じて専門知識や、地域の情報を持つ方々の参加を柔軟に検討されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの方々と連絡を取り合い、ケアサービスについて御理解頂き協力関係を築いている。	変更申請など定期的な報告以外に、介護関係の資料の入手などに出かけた際にも、担当部署に立ち寄り協力関係を築くよう努めている。包括支援センターとは相談やアドバイスを受けたり、密に連絡を取り合い情報交換をし協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車の往来がある為、入所者の方が出入りする際に玄関の鍵を開けている。駐車場・門の整備が成され、駐車場で外気浴をしつつ歌を唄ったり、花を育てたりと開放的な暮らしをできるように務めている。	身体拘束については全職員が理解している。駐車場の一部にネットフェンスを設け、門扉も整備され屋外で楽しめるスペースは確保できたが、車の往来もあり安全に考慮して玄関は施錠している。日常的には「怒らない・否定的な言葉を使わない」を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホームからの高齢者虐待防止に関する資料を会議で配布し話し合うなど、防止の意識が高まるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、グループホーム協議会からの高齢者虐待防止に関する資料を配布し、防止の意識が高まるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の祭、契約書等十分に説明し、質問等を受け、理解を得ている。解約の時もよく話し合いを持つようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「よろず相談・苦情箱」を設け、いつでも利用できるようにしている。又、運営推進会議を通して、運営に反映させている。	家族の来訪時や電話での話し合いの中で気軽に意見が出せるよう信頼関係の構築に努めている。運営推進会議にも家族代表が参加し発言の機会を設け意見、要望は運営に反映させサービスの向上に努めている。玄関に「よろず相談・苦情箱」を設けているが、利用されたことはない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングや会議等、又は職員個々に意見交換を行い、反映させている。	朝のミーティングや会議で意見や提案を出せる機会を設けている。個人的にもいつでも気軽に話せるような雰囲気作り心がけている。管理者は出された勤務体制などの意見や要望について解決に向けて経営者と話し合いを持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一昨年度より、人員の削減が図られ、業務を見直し努力しているが、厳しい状況にある。今後も話し合いを持ち、職場環境を向上させていきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	公の研修については、積極的に進めている。しかし、人員不足もあり、参加できない場合もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修や交流会に積極的に参加し、情報交換を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症ケアの基本として、入所者の方々との信頼関係を大切にしている。又、困っていることや不安がある時には、積極的に声掛けを行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に当たり、御家族・担当ケアマネ等により、情報を収集し、どのような事で困っているか必ず確認している。介護計画にも取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族が、適切な介護サービスが受けられるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、お互い喜怒哀楽を共にし、食卓を囲み、暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と情報交換を密にして、より良い介護サービスを行えるよう常に努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人が長年通っていた店や自宅に、御家族に相談の上、出掛けるなど支援に努めている。	入居者個々の希望に対応をしている。自宅に行きたいという希望者には自宅の前や周辺を廻ってくることもある。喫茶店に行き友達と会うことを楽しみにしている入居者や衣類や小物などの買い物、美容室など馴染みの場所への外出支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方々が、認知症による混乱がある場合、職員が間に入り人間関係が円滑にいくように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、様子確認に伺うなど努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、御希望や思いを伺い、叶うよう務めている。また、コミュニケーションを大切にして、本人本位になるよう務めている。	入居者の大半が言葉で意思表示が出来るが、1対1になれる居室や入浴時の会話は、日常聴けないような思いや希望を把握できる良い機会でもある。一人ひとりの個性を見極め、コミュニケーションを大切に思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所者の各居室に、その方の馴染みの物を持って来て頂き、その方らしい暮らしができるよう務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会議等で、入所者の方々の心身状態や過ごし方などの情報交換を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を立てる際は、御家族より意向を伺い、反映させている。又、会議にて担当者が課題を抽出・話し合いをし、決めている。	基本情報をベースに、日頃より本人や家族から聴いている希望や毎日の介護記録などから計画案を作成し、全員が参加するカンファレンスで意見を出し合って介護計画をケアマネが作成している。家族には訪問時や郵送で同意を得ている。状況に応じて随時見直をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしについて、個別記録を記入し様子変化を捉えるようにしている。又、モニタリングに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模な施設なので、御本人や御家族の状況に合わせて、ニーズに対応して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームは、地域密着型なので地域のボランティア・学校関係等、常に交流を持つよう務めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人及び御家族と話しあった上で、かかりつけ医を決定し適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医は本人、家族の希望を尊重している。受診は家族対応を原則としているが家族の都合で大半は同行支援をしている。協力医(内科)が看護師と共に2週間毎に往診をしている。協力歯科医も定期的に往診し治療に当たっており、適切な医療支援は、本人・家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診に来て下さっている病院の看護職員と気軽に相談できる関係となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所者の方が入院した予期は、御家族・病院関係者等と密に連絡を取り合うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の利用者がより良い暮らしができるよう、かかりつけ医と相談・支援していきたい。	入居者の重度化や終末期の対応はしていない。早い時点でかかりつけ医、家族と話し合いを持ち方針を出して確認している。また、急変した場合は協力医が24時間体制で病院を紹介・連絡を取ってくれている。	医療環境の変化や延命処置を望まない場合など、事業所での看取り希望が増えることが予測されます。協力医の指導を得て、全職員が看取り知識を習得し、対応できる体制を整えておかれる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所者の方の急変に合わせて、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の自治会に加入して、災害時協力を得ることができるよう務めている、また、東日本大震災を経験し、災害時の対策について会議等で話し合いを行った。	年2回(8月・1月)消防署の参加を得て避難訓練を実施している。入居者の中には難聴の方もいることから火災を知らせる方法について職員から意見が出て改善に向けて検討している。大震災の後、会議を持ち震災時の対応についての反省や今後の対応、備蓄品などについて検討し、ラジオや懐中電灯なども追加している。	地域住民、特に近隣の方の協力と地域消防団との協力体制を確立されること、職員の少ない夜間を想定した訓練も実施されることを期待します。特に夜間勤務専任の職員の避難誘導訓練への参加を早急に実施されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーを尊重し、声掛けを行う。又、記録物が目に触れぬよう注意している。	一人ひとりの人格を尊重し尊敬の念を持って接し、誇りやプライバシーを損ねないように対応している。声かけも横から同じ高さの目線でするようにし、言葉遣いも雑にならないように心がけて接している。個人情報記録類は指定の場所で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを大切にして、希望や充実した生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活様式を大切にして話し合い、御希望に添った形で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、ボランティアの方に散髪を行なって頂いているが、その他に御希望の理容室・美容室に行く方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者にとって、食事は楽しみ事と捉え、嗜好を取り入れ一緒に作るよう努めている。又、片付けも行なっている。	献立は職員が1週間毎に入居者の嗜好や季節感を取り入れ作成している。食材は入居者と一緒に近くのスーパーに買出しに出かけている。食事は野菜を多く取り入れるなど健康に配慮した物にしている。全員が「できる」という実感が持てる自分の役割を持ち、野菜を切ったり皮を剥いたり器の準備をしたり、後片付けを最後まで楽しそうに会話をしながら行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃より、食事量や栄養バランス等を観察している。嗜好を大切にするなどして、できるだけ安定的に摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入所者の方々の自尊心を傷つけないように声掛けを行い、口腔ケアを行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を把握して、その方に合った対策・対応をするよう努めている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、状況に応じて誘導している。常時トイレ誘導を必要としている入居者は少なく、リハビリパンツ、布パンツ使用者の数は半々である。夜間もポータブルを使用している入居者は少ない。排泄介助時には言葉遣いに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入所者の方のプライバシーを保てる範囲で確認を行い、一緒に原因を考え飲食物を工夫したり、運動するなど働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は御希望を伺い、その方に合わせた形で入浴が楽しめるよう支援している。	原則的には毎日午後の時間帯に入浴しているが、隔日の入浴を希望する入居者が多い。入浴を拒む入居者に毎日浴室に誘導するなど根気良く繰り返しながら約一ヶ月後にやっと入浴をするようになった例がある。入浴剤を使用したり、柚子や菖蒲を入れ季節感を味わいながら入浴を楽しむ支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所者の方の生活リズムを把握して、安心して休んで頂けるよう務めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、病院・往診等で受診した内容について、連絡ノートで把握し、服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張り合いが持てるように、ケアを行っている。又、「できる」という実感が持てるよう役割作りを行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入所者の方々が、できる限り自由な暮らしができるように、ご希望に合わせて外出するよう支援している。	天気の良い日には周辺の散歩、毎日の食材の買出し、馴染みの店での買い物、また、地域の行事、学校の運動会や学校祭など外出の機会が多い。花見や紅葉狩りなど四季折々の遠足には手作りのお弁当を持参して楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所者の方の御希望に合わせて話し合い、所持していただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常生活の中で、御希望に応じて電話をしたり手紙をやり取りするなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、居心地のよい雰囲気になるよう配慮し、生活感や季節感を取り入れている。	広いリビングにはテーブルの他に、眺めの良い窓際にソファが置かれ新聞や本を読んだり、一人になれる場所もある。リビングの一角には初市で購入した大きな「だるま」が置かれていたり、雛壇の飾り付けが予定されるなど、季節感を採り入れている。また、完成して間もない駐車場の一部をネットフェンスで囲んだスペースにはベンチが置かれ、戸外での外気浴や行事なども行えるようになった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチがあったり、リビングにソファがあったりと、独りになれたりするよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、今までの生活で使ってきた物、馴染みの物を持って来て頂き、居心地のよい空間となるようにしている。	持ち込みの制限は特になく、自宅で愛用していた馴染みのベットや嫁入り道具の鏡台、ご主人の位牌などを持ち込んでいる入居者もいる。持ち込み家具類は好みに合わせて配置し、自作品や家族の写真は目につきやすい所に飾り、居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所者の方の持てる力を活かして、生活ができるよう支援している。		